

第 1 回小委員会のまとめの報告

●第 1 回地域づくり小委員会(平成 28 年 1 月 27 日)では、以下の議題が議論された。

- ・ 議事 1 釧路湿原自然再生協議会について
- ・ 議事 2 釧路湿原で行っている自然再生事業について
- ・ 議事 3 釧路館内の観光の現状について
- ・ 議事 4 地域づくり小委員会の進め方について
- ・ 議事 5 意見交換

●議事 5 意見交換では以下のような意見が出された。

①地域づくり小委員会の進め方に関する意見

- ・ 「釧路湿原の自然再生」と「地域や産業の振興」をいかにより形で両立させていくかを考える、非常に重要な委員会。
- ・ “要求”するだけ、“評論”するだけでなく、「私はこういう面で自然再生に“参加”します」という人が集まっているのが自然再生協議会である。
- ・ この小委員会が、若い人に「自然の素晴らしさ」や「自然が観光資源につながる」ということを伝える場になればよい。
- ・ 次回以降の提案として、どういう役所が、どういう振興策をやっているのかなど、情報共有出来ればよい。知ることによって、具体的な協働の提案ができる。
- ・ 再生普及小委員会では、自然再生と地域産業をつなぐガイドマップを作った。この小委員会でもガイドマップを積み重ねていけばよいと思う。

②「観光などの地域振興による湿原の賢明な利用」に関する意見

- ・ 湿原の魅力や価値について、伝え方が専門的になっていないか、魅力や価値があるのが当たり前なものとして伝えようとしていないか。民間の発想を取り入れて、どう伝わるか考えて欲しい。
- ・ 釧路地域には他地域に負けない観光資源が揃っており、その一つが釧路湿原。平成 27 年度上期の観光入り込み客数は約 10%増加しており、釧路の魅力が浸透してきているので、ワイズユース・保全という観点から観光に活かしたい。
- ・ イトウはちゃんと保護すればふやしていけることがわかってきた。イトウを守るルール作りが出来れば観光の目玉にもできる。
- ・ 自然に対する扱い、体験型観光などのニーズが変わってきた。世界有数の自然が凝縮されている釧路地域に大きなチャンス。地域づくり小委員会にはいろんなメンバ

ーがいるので、地域の活動を支援していきたい。

- 保全するためには利用のこともしっかりしないと続かない。

③「地元産業との連携の検討」に関する意見

- まず第一に保全。そして、湿原を守りながら利用し、経済活動や地域の活性化に結びつくとよい。
- 湿原の保全と地域の社会経済活動をバランスよく推進していきたい。湿原と関連する観光や農林水産業の取り組みについて、地域の皆さんと情報共有をしていきたい。
- 自然の再生や保全の取り組みを付加価値としてうまく載せられないか。規制をかけることで価値が高まり、そこに価値を見いだす人もいるので、そこをうまく地域の利益につなげたい。
- 塘路湖とシラルトロ湖に土砂が流入し、湖が浅くなり、水草が増え、湖が小さくなっている。この湖をどう維持していくか。ワカサギ漁があり、産業を守りながら自然を守るいい題材である。

④「湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくり」に関する意見

- 湿原内の国の天然記念物に指定されている場所の立ち入りについて、できることとできないこと、法的な面も含めて、整理してほしい。
- 野生動物への餌付けなどがなくならないかぎり保護につながらない。モラルの面を観光客にどう注意していくか。
- 自然ガイド自らがきちんと湿原を理解しなければ観光客に湿原を正しく理解してもらえないため、常時研修を行っている。ガイドの資格制度を大事にし、資格と責任をもってガイドしなければならない。
- カヌーは釧路湿原のアクティビティとして人気があるが、自然への負荷軽減に取り組まなければならない。負荷軽減のアイデアをもらえれば。安全面を考えていかなければならない。※会議での発言を受け、一部修正しました。
- カヌーガイドラインは、安全に関する部分が未作成なので、協力して作りたい。

⑤「産業や暮らしにおける環境や景観への配慮」に関する意見

- 湿原のワイズユースがキーワード。それをより強くするため、湿原にあまり関係ないと思っている人たちが、湿原というスクリーンを通してものを考える習慣づけが必要。
- 子どもたちに湿原の良さを知ってもらい、体験させて、頭の中にその原型を残してもらって、将来釧路に帰ってきてもらえる環境作りをやりたい。
- 地元の人が湿原を知らない、入ったこともない。地元の人に知ってもらうことが、自然再生やワイズユースに活かしていく上で大事。

- 今までは自然資源の収奪一辺倒の開発であり、その反省に立って自然環境の持続的な利用や、生態系の恵みを得て生きていけるライフスタイルに変えていくこと等を含めて地域づくりを考えていかなければいけない。
- 釧路川には本線からの水が流れていない。釧路川に注水することは自然再生にも大きな貢献をすると考える。サケの稚魚が栄養を採るので富栄養化も軽減されるのではないか。